

いま新富町のこの人が気になる

SHINTOMI-JIN

#006 今月の新富人



市町村対抗駅伝新富町チーム監督 石黒良一さん

1972年、神奈川県生まれ。22歳から陸上競技に取り組み始め、30代で記録した5000mの自己ベストは15分30秒。児湯郡町村対抗駅伝の実行委員長も務める。音楽療法士の資格を持ち、新田地区で老人ホームやデイサービスを展開する「NPO法人みやざきみんなの家」理事長。



毎年1月に行われ、県内全26市町村が参加する宮崎県市町村対抗駅伝競争大会（以下、市町村対抗駅伝）。小学生から50歳以上まで、幅広い年代が地域代表としてタスクをつなぎます。この大会に10年連続で出場し、新富町チームの監督も務めるのが石黒良一（いしぐろりょういち）さんです。

福祉（障がい児者・高齢者）の仕事が本業ですが、仕事と同等に重きを置いてきたというほど、走ることが大好き。毎年10月から市町村対抗

駅伝の練習が始まると、石黒さんは監督兼選手として練習メニューの組み立て、走り方の指導などを行いつつ、自身もチームの選手と一緒に練習を重ねます。

「指導者にはいろいろなスタイルがありますが、僕は選手と一緒に走り、練習の苦しみもともに乗り越える存在でありたい」

そんな石黒さんが一番心がけていることは、タイムだけを重んじないチーム作り。市町村対抗駅伝には、新富町出身、在住、在勤などさまざまな人が参加します。普段は異なる団体に所属する人が参加し、毎年顔ぶれが変わるため、チームをまとめるのは大変です。

「タイムの速い選手だけが努力しているわけではなく、他者に負けた子どもも一生懸命頑張っています。一人ひとりが自分の記録を更新することに価値があるんです。」



だから、1人の頑張りをみんなが認め合い、『また新富町でこの駅伝を走りたい』とみんなが思えるチームにしていきたいです」

もともと神奈川県の出身で、幼い頃から走ることが好きでしたが、家庭の事情で運動部に入れなかったという石黒さん。地元を飛び出して宮崎の大学に進学、大学2年生の時に参加した綾・照葉樹林マラソンをきっかけに、「今からでも挑戦してみよう」と本格的に走り始めました。

「体を限界まで追い込み仲間と競り合う、その一瞬一瞬が心に焼きついて『真剣勝負』と『生きていること』を実感します。これは走らないと味わえない醍醐味です」

結婚を機に新富町へ引っ越してきた際は、走りを通した仲間の輪に入れたことで知り合いが増え、地域に溶け込めたそうです。

「走り続けてきたおかげで、多くの出会いに恵まれた今、自分が同じ

です。今度は僕が同じ

環境を子どもたちに作りたい。そのために、仲間たちと『新富町のチームで駅伝を走りたい』という夢を持てるチームづくりをしています。子どもたちが『大人になっても町で走り続けたい』と思ってくれたら、嬉しいですね」

これからも夢に向かって、石黒さんは走り続けます。

●年齢や経験を問わず、駅伝参加者を募集しています。興味のある方はご連絡ください。 生涯学習課 ☎33・1022